

選 抜 方 式

(1) 一般入試方式

共通1次試験、第2次試験、高校調査書及び健康診断などの判定資料を総合して、合否が判定される方式である。これには、2段階選抜・合否判定方式・補欠・第2次募集等の諸問題が含まれるが、大学等における最近の研究について述べることにする。

○2段階選抜

共通1次試験の成績により第1段階選抜をする場合、定員に対する適正倍率を探るシミュレーションにより、3倍でもほぼ問題ないが、3.5倍の方がより適切であるとした研究がある（千葉大学）。

○合否判定方式

各判定資料の使い方、配点比率の決め方により、多数の方式が考案できるが、どの方式の場合に合格者群はどうなるかの問題がある。共通1次試験と第2次試験の配点比率に関しては16頁に扱われている。第2次試験のうち学力検査以外の面接・小論文等や調査書の範囲にわたって、配点比率を変えた場合の合否交替も研究されている。交替は僅少（名古屋大学）、又は、数パーセント～10数パーセント（旭川医科大学・岩手大学）であった。群馬大学では段階的回帰手順を使ってこの種の研究を続けている。

○第2次募集

「1期・2期制」の廃止により、国公立大学の受験機会を少しでも多くするため、また大学側には

定員確保のため、正規入試不合格者中の高学力者を入学させる効果を期待して、第2次募集方式が採用されている。これをめぐって10以上の大学及び2件の個人研究がある。主な指摘は、①共通1次試験成績は正規合格者より概してかなり高い（秋田大学・滋賀大学・広島大学等）。②学内成績における正規合格者との差は、小さいか又は縮小化している（東京商船大学・鳥取大学等）。③入学辞退率・退学率が高い（滋賀大学等）。定着率は向上した（鳥取大学）。④学習意欲・目的意欲について指導の必要がある（富山医科薬科大学）。⑤教官・学生の大部分が賛成（鳥取大学）などである。

(2) 推薦入学方式

学生集団の構造を多様化する — 例えば、高校在学中中学業もよくクラブ活動等望ましい生活を送ってきた者、職業高校出身で普通高校卒とはやや異なる学習をし、目的意識の強い者、社会人で学習意欲の高い者、外国の異文化の中で育った帰国子女などを迎え入れることは、学園生活を豊かにし、学生相互に好ましい影響・刺激の交流を促進する。また、職業高校出身者や社会人等の教育機会均等化に資する。このような趣旨で推薦入学方式を採用した大学は少なくない。56年度では、国立大学の昼間部73学部（22%）、夜間部13学部（76%）である（文部省大学課調）。その研究も10以上の大学と4

件の共同研究・個人研究で熱心に進められている。これらに見られる主な問題点は、次のとおりである。

○高校の学習達成度（学力）

推薦入学には、第2次試験が免除され、場合によっては共通1次試験も免除されるため、受験準備のプレッシャーが無いが又は弱い。このことは健全な高校生活を送りやすいというメリットがある反面、学力の質に問題がないかとの不安も招く。これに関しては、入学後約1年目の学生を対象として共通1次追試験問題を使って国語・数学Ⅰ・英語Bの実験的学力調査を行った事例がある（大学入試センター）。その際に実施した質問紙調査の結果によれば、高校生活や意欲等において、この事例の推薦入学は概して成功であった（大学入試センター）。また推薦入学者と一般入学者の比較と併せて、調査書成績・共通1次試験成績・学内成績等の関連調査が行われ（山形大学・琉球大学等）、調査書と共通1次試験の関連については一般入学者群に比して大差がある（筑波大学）との研究もある。

○学内成績

教養課程・専門課程の単位取得状況や評点の追跡調査が多い（九州工業大学等）。単位取得状況は一般入学者に比し概して勝る（福島大学・和歌山大学等）、一方、教養課程の取得単位数がより少なく、特に語学が悪い、専門課程への進学率がより低いという大学もある。評点についても、一般入学者群より概して勝っている（弘前大学・福島大学・筑波大学）、人文科学科目とドイツ語で勝っている（山形大学）との報告もある。しかし、農学部関係では、全国

的に推薦入学の定員が拡大したため、志願者が減少し、英語学力が低下し、専門課程の学習に初期ほど意欲が見られないと報告した大学もある。

○職業高校からの推薦入学

富山大学の行った職業高校生の推薦入学についての質問紙調査への回答83国立大学中、この種の推薦入学実施校は37、経済・経営学部10、工学部11、農学部18、水産学部3（50年度）で、52～56年度の職業高校生の進学者2,096人中推薦入学者は83パーセントであった。このような全国的進学状況のほか、高校在学中の進学意思決定過程、進学指導の状況、カリキュラムと大学入試の関係、進学者の意識、進学後の学力の実態が調査され、この方式のメリットが解明されている。長岡技術科学大学では工業高校85校に対する質問紙調査を行っている。③福島大学では、商業高校から経済学部夜間主コースへの推薦入学者の追跡調査を行ったが、学内成績は他の入学者群より優れていた。

○出願要件・選抜基準の検討

宮城教育大学では、推薦入学が受験対策のための窓口化している弊害を除き、本来の趣旨に即するよう改善を図るため、推薦条件（出願資格等）・募集人員・出願書類・選考方法・実施体制（判定資料を含む。）等を検討している。筑波大学では、選抜責任者に対し質問紙調査を行い改善資料としている。

(3) 特別入学方式

私費外国人留学生を、日本語を中心とする筆記・口述試験と、中等学校在学成績等の書類審

査などにより選抜する方式は、しばしば特別入学と呼ばれている。いわゆる帰国子女や社会人という別枠での入学は、一種の推薦入学として扱われているが、判定資料の利用法を考えると特別入学に分類する方が自然であろう。後二者に関しては実施大学が漸増する傾向にあるが、研究としては次のものが見られる。

○私費外国人留学生・帰国子女

筑波大学では、9月から入学させる特別入学を実施しているが、これについて指導教官に対する質問紙調査の結果、有意義な大学生活を送り周囲の学生にも好影響を与えていると全員が報

告している。なお、同大学では国際バカロレア主要理科教育会議を57年9月に開催し、なおその研究を続けている。

○社会人の推薦入学

福島大学では、経済学部夜間主コースの推薦入学で、高校の商業に関する学科を卒業見込みの者（商業推薦）、高校卒の社会人（社会人推薦）の2種に分けて選抜し、この両群と一般入学者群（無職者）との学内成績に関する追跡調査を行っているが、社会人推薦は無職者に比し概して優位に立ち、その健闘ぶりが指摘されている。